



ユーザ設定の指定

以下のトピックでは、ユーザ設定を指定する方法について説明します。

- [ユーザ設定の概要 \(1 ページ\)](#)
- [パスワードの変更 \(1 ページ\)](#)
- [失効パスワードの変更 \(2 ページ\)](#)
- [ホームページの指定 \(3 ページ\)](#)
- [イベントビュー設定の設定 \(3 ページ\)](#)
- [デフォルトタイムゾーンの設定 \(9 ページ\)](#)
- [デフォルトのダッシュボードの指定 \(10 ページ\)](#)

ユーザ設定の概要

ホームページ、アカウントパスワード、タイムゾーン、ダッシュボード、イベントビューの各設定など、単一のユーザアカウントに関連付けられた設定を構成できます。

ユーザロールに応じて、パスワード、イベントビューの設定、タイムゾーンの設定、ホームページの設定など、ユーザアカウントにある特定の設定を指定できます。

マルチドメイン展開では、ユーザ設定は、アカウントでアクセスできるすべてのドメインに適用されます。ホームページ設定とダッシュボード設定を指定した場合、特定のページとダッシュボードウィジェットがドメインから制約を受けることに留意してください。

パスワードの変更

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
任意	任意	任意	任意	任意

すべてのユーザアカウントはパスワードで保護されています。パスワードはいつでも変更することができ、ユーザアカウントの設定によっては定期的にパスワードを変更しなければならない場合もあります。

パスワードの強度チェックが有効の場合、パスワードは大文字と小文字が混在する少なくとも8つの英数字で、少なくとも1つの数字が含まれている必要があります。パスワードは、辞書に出現する単語であったり、連続する繰り返し文字を含んでいたりすることができません。

LDAPまたはRADIUSユーザの場合、Webインターフェイスを介してパスワードを変更することはできません。

ステップ1 ユーザ名の下にあるドロップダウンリストから、[ユーザプリファレンス (User Preferences)] を選択します。

ステップ2 [現在のパスワード (Current Password)] を入力して、[変更 (Change)] をクリックします。

ステップ3 [新しいパスワード (New Password)] および[確認 (Confirm)] フィールドに、新しいパスワードを入力します。

ステップ4 [変更 (Change)] をクリックします。

失効パスワードの変更

スマートライセンス	従来の特許	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
任意	任意	任意	任意	任意

ユーザアカウントの設定によっては、パスワードが期限切れになることがあります。パスワードの有効期間は、アカウントが作成されたときに設定されます。パスワードが期限切れになった場合、[パスワードの有効期限の警告 (Password Expiration Warning)] ページが表示されます。

パスワードの有効期限の警告のページには2つの選択肢があります。

- すぐにパスワードを変更するには、[パスワードの変更 (Change Password)] をクリックします。残りの警告日数がゼロの場合は、パスワードを変更する**必要があります**。

ヒント パスワードの強度チェックが有効の場合、パスワードは大文字と小文字が混在する少なくとも8つの英数字で、少なくとも1つの数字が含まれている必要があります。パスワードは、辞書に出現する単語であったり、連続する繰り返し文字を含んでいたりすることができません。

- 後でパスワードを変更するには、[後で (Skip)] をクリックします。

ホームページの指定

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
任意	任意	任意	任意	External Database User を除くすべてのユーザ

Web インターフェイス内のページをアプライアンスのホームページに指定できます。ダッシュボードへのアクセス権がないユーザアカウントを除いて、デフォルトのホームページは、デフォルトダッシュボード ([**Overview**] > [**Dashboards**]) です (デフォルトダッシュボードの設定については、「[デフォルトのダッシュボードの指定 \(10ページ\)](#)」を参照してください)。

マルチドメイン環境では、選択したデフォルトのホームページは、ユーザアカウントがアクセスできるすべてのドメインに適用されます。複数のドメインに頻繁にアクセスするアカウントのホームページを選択する際、特定のページはグローバルドメインに制限されることに注意してください。

ステップ 1 ユーザ名の下にあるドロップダウンリストから、[ユーザ設定 (User Preferences)] を選択します。

ステップ 2 [ホームページ (Home Page)] をクリックします。

ステップ 3 ホームページとして使用するページをドロップダウンリストから選択します。

ドロップダウンリスト内のオプションは、ユーザアカウントのアクセス権限に基づいて表示されます。詳細については、[Web インターフェイスのユーザロール](#)を参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

イベントビュー設定の設定

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン数	アクセス
任意	任意	任意	任意	機能に応じて異なる

[イベントビュー設定 (Event View Settings)] ページを使用して、Firepower Management Center のイベントビューの特性を設定します。イベントビュー設定は、特定のユーザロールでのみ使用可能であることに注意してください。External Database User ロールを持つユーザは、イベントビュー設定のユーザインターフェイスの一部を表示できますが、それらの設定を変更しても意味のある結果は生じません。

-
- ステップ1 ユーザ名の下にあるドロップダウンリストから、[ユーザ設定 (User Preferences)] を選択します。
 - ステップ2 [イベントビュー設定 (Event View Settings)] をクリックします。
 - ステップ3 [イベント設定 (Event Preferences)] セクションで、イベントビューの基本特性を設定します。[イベントビュー設定 \(4 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ4 [ファイル設定 (File Preferences)] セクションで、ファイルダウンロードを設定します。[ファイルダウンロード設定 \(5 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ5 [デフォルト時間帯 (Default Time Windows)] セクションで、デフォルトの時間帯を設定します。[デフォルト時間帯 \(6 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ6 [デフォルトワークフロー (Default Workflow)] セクションで、デフォルトワークフローを設定します。[デフォルトワークフロー \(8 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ7 [保存 (Save)] をクリックします。
-

イベントビュー設定

[イベントビュー設定 (Event View Settings)] ページの [イベント設定 (Event Preferences)] セクションを使用して、Firepower システムのイベントビューの基本特性を設定します。このセクションはすべてのユーザロールで使用可能ですが、イベントを表示できないユーザには、ほとんどまたはまったく意味がありません。

以下のフィールドが [Event Preferences] セクションに示されます。

- [Confirm “All” Actions] フィールドは、イベントビューのすべてのイベントに影響を与える操作について、アプライアンスがユーザに確認を要求するかどうかを制御します。
たとえば、この設定が有効である場合、イベントビューで [Delete All] をクリックすると、アプライアンスがデータベースからの削除を実行する前に、現在の制約を満たすすべてのイベント（現在のページに表示されていないイベントを含む）を削除することをユーザが確認する必要があります。
- [Resolve IP Addresses] フィールドは、可能な場合には常に、アプライアンスがイベントビューで IP アドレスの代わりにホスト名を表示するようにします。
多数の IP アドレスが含まれている場合、このオプションを有効にすると、イベントビューの表示に時間がかかる可能性があることに注意してください。また、この設定を有効にするには、管理インターフェイス設定を使用して、システム設定で DNS サーバを確立する必要があることにも注意してください。
- [パケットビューの展開 (Expand Packet View)] フィールドでは、侵入イベントのパケットビューをどのように表示するかを設定できます。デフォルトでは、アプライアンスによるパケットビューの表示は折りたたまれた状態になっています。
 - [なし (None)]: パケットビューの [パケット情報 (Packet Information)] セクションのサブセクションをすべて折りたたんだ状態にします。

- [パケットテキスト (Packet Text)]: [パケットテキスト (Packet Text)]サブセクションだけを展開します。
- [パケットバイト (Packet Bytes)]: [パケットバイト (Packet Bytes)]サブセクションだけを展開します。
- [すべて (All)]: すべてのセクションを展開します。

デフォルト設定に関係なく、パケットビューのセクションを手動で展開することで、キャプチャされたパケットに関する詳細情報を常に表示することができます。

- [1 ページあたりの行数 (Rows Per Page)] フィールドは、ドリルダウンページとテーブルビューに表示する、ページごとのイベントの行数を制御します。
- [更新間隔 (Refresh Interval)] フィールドは、イベントビューの更新間隔を分単位で設定します。0 を入力すると、更新オプションが無効になります。この間隔はダッシュボードに適用されないことに注意してください。
- [Statistics Refresh Interval] は、[Intrusion Event Statistics] や [Discovery Statistics] ページなどのイベントのサマリーページの更新間隔を制御します。0 を入力すると、更新オプションが無効になります。この間隔はダッシュボードに適用されないことに注意してください。
- [ルールの非アクティブ化 (Deactivate Rules)] フィールドは、標準テキストルールによって生成される侵入イベントのパケットビューに、どのリンクを表示させるかを次のように制御します。
 - [すべてのポリシー (All Policies)]: すべてのローカルで定義されたカスタム侵入ポリシーで標準テキストルールを非アクティブにする単一リンク
 - [現在のポリシー (Current Policy)]: 現在展開中の侵入ポリシーだけで標準テキストルールを非アクティブにする単一リンク。デフォルトのポリシーのルールは非アクティブにできないことに注意してください。
 - [質問 (Ask)]: これらの個々のオプションへのリンク

パケットビューでこれらのリンクを表示するには、Administrator または Intrusion Admin のアクセス権があるユーザアカウントが必要です。

関連トピック

[管理インターフェイス](#)

ファイルダウンロード設定

[イベントビュー設定 (Event View Settings)] ページの [ファイル設定 (File Preferences)] セクションを使用して、ローカルファイルダウンロードの基本特性を設定します。このセクションは、Administrator、Security Analyst、または Security Analyst (読み取り専用) ユーザロールを持つユーザのみが使用できます。

キャプチャされたファイルのダウンロードをアプライアンスがサポートしていない場合、これらのオプションは無効になることに注意してください。

以下のフィールドが [ファイル設定 (File Preferences)] セクションに示されます。

- [Confirm 'Download File' Actions] チェックボックスは、ファイルをダウンロードするたびに [File Download] ポップアップウィンドウが表示され、警告が示されて続行するかキャンセルするかを選択するためのプロンプトが出されるようにするかどうかを制御します。



注意 シスコでは、有害な結果が発生することがあるため、マルウェアをダウンロードしないように強くお勧めします。ファイルをダウンロードする際は、マルウェアが含まれている可能性があるため注意してください。ファイルをダウンロードする前に、ダウンロード先をセキュアにするために必要な予防措置を行っていることを確認します。

ファイルをダウンロードする際には、いつでもこのオプションを無効にできることに注意してください。

- キャプチャされたファイルをダウンロードすると、そのファイルを含むパスワード保護された .zip アーカイブがシステムによって作成されます。 [Zip File Password] フィールドは、zip ファイルへのアクセスを制限するためにユーザが使用するパスワードを定義します。このフィールドを空欄にすると、パスワードなしのアーカイブファイルがシステムによって作成されます。
- [Show Zip File Password] チェック ボックスによって、 [Zip File Password] フィールドにプレーンテキストを表示するかまたは不明瞭な文字を表示するかを切り替えます。このフィールドをオフにすると、 [zip ファイルパスワード (Zip File Password)] には不明瞭な文字が表示されます。

デフォルト時間枠

時間枠 (時間範囲と呼ばれることもある) は、任意のイベントビューでイベントに時間制約を課します。 [Event View Settings] ページの [Default Time Windows] セクションを使用して、時間枠のデフォルトの動作を制御します。

このセクションへのユーザ ロール アクセスは以下のとおりです。

- Administrators と Maintenance Users は、セクション全体にアクセスできます。
- Security Analysts と Security Analysts (読み取り専用) は、 [Audit Log Time Window] 以外のすべてのオプションにアクセスできます。
- Access Admins、Discovery Admins、External Database Users、Intrusion Admins、Network Admins、および Security Approvers は、 [Events Time Window] オプションにのみアクセスできます。

デフォルトの時間枠設定に関係なく、イベントの分析中にいつでも手動で個別のイベントビューの時間枠を変更できることに注意してください。また、時間枠の設定は、現在のセッションにだけ有効であることにも注意してください。ログアウトしてから再びログインすると、時間枠は、このページで設定したデフォルトにリセットされます。

以下のように、デフォルトの時間枠を設定できる3つのタイプのイベントがあります。

- [Events Time Window] は、時間で制約できるほとんどイベントのために単一のデフォルトの時間枠を設定します。
- [Audit Log Time Window] は、監査ログのためにデフォルトの時間枠を設定します。
- [Health Monitoring Time Window] は、ヘルス イベントのためにデフォルトの時間枠を設定します。

時間枠は、ユーザアカウントがアクセスできるイベントタイプにのみ設定できます。すべてのユーザタイプは、イベントの時間枠を設定できます。Administrators、Maintenance Users、および Security Analysts は、ヘルス モニタリングの時間枠を設定できます。Administrators と Maintenance Users は、監査ログの時間枠を設定できます。

すべてのイベントビューが時間で制約できるとは限らないので、時間枠の設定によって、ホスト、ホスト属性、アプリケーション、クライアント、脆弱性、ユーザの ID、ホワイトリスト違反を表示するイベントビューは影響を受けないことに注意してください。

複数の時間枠を使用して、上記の各タイプのイベントに1つずつ適用するか、または単一の時間枠を使用して、それをすべてのイベントに適用することができます。単一の時間枠を使用すると、3つのタイプの時間枠用の設定が非表示になり、新しく [Global Time Window] 設定が表示されます。

以下の3つのタイプの時間枠があります。

- 静的は、特定の開始時刻から特定の終了時刻までに生成されたすべてのイベントを表示します
- 拡張は、特定の開始時刻から現在までに生成されたすべてのイベントを表示します。時間の進行と共に時間枠が拡張され、新しいイベントがイベントビューに追加されます。
- スライディングは、特定の開始時刻（たとえば1日前）から現在までに生成されたすべてのイベントを表示します。時間の進行と共に時間枠は「スライド」し、設定した範囲内（この例では直前の1日）のイベントだけが表示されます。

すべての時間枠の最大時間範囲は、1970年1月1日午前0時（UTC）～2038年1月19日午前3時14分7秒です。

次のオプションは、[Time Window Settings] ドロップダウンリストに表示されます。

- [Show the Last - Sliding] オプションにより、指定した長さのスライドするデフォルトの時間枠を設定できます。

アプライアンスは、特定の開始時刻（たとえば1時間前）から現在までに生成されたすべてのイベントを表示します。イベントビューの変更と共に、時間枠は「スライド」して、常に最後の1時間内のイベントが表示されます。

- [Show the Last - Static/Expanding] により、指定した長さのデフォルトの時間枠を静的または拡張のどちらかに設定できます。

静的時間枠にするには、[Use End Time] チェック ボックスをオンにします。アプライアンスは、特定の開始時間（1時間前など）から現在までに生成されたすべてのイベントを表示します。イベントビューを変更しても時間枠は固定されており、静的な時間枠の間に発生したイベントのみが表示されます。

拡張時間枠にするには、[Use End Time] チェック ボックスをオフにします。アプライアンスは、特定の開始時刻（たとえば1時間前）から現在までに生成されたすべてのイベントを表示します。イベントビューを変更すると、時間枠は現在まで拡張されます。

- [Current Day - Static/Expanding] オプションにより、現在の日付のデフォルトの時間枠を静的または拡張のどちらかに設定できます。現在の日付は、現行セッションのタイムゾーン設定に基づいて午前0時に始まります。

静的時間枠にするには、[Use End Time] チェック ボックスをオンにします。アプライアンスは、午前0時からユーザがイベントを初めて確認した時刻までに生成されたすべてのイベントを表示します。イベントビューを変更しても時間枠は固定されており、静的な時間枠の間に発生したイベントのみが表示されます。

拡張時間枠にするには、[Use End Time] チェック ボックスをオフにします。アプライアンスは、午前0時から現在までに生成されたすべてのイベントを表示します。イベントビューを変更すると、時間枠は現在まで拡張されます。ログアウトする前に24時間を超えて分析を続けた場合、この時間枠は24時間よりも長くなる可能性があることに注意してください。

- [Current Week - Static/Expanding] オプションにより、現在の週のデフォルトの時間枠を静的または拡張のどちらかに設定できます。現在の週は、現行セッションのタイムゾーン設定に基づいて直前の日曜日の午前0時に始まります。

静的時間枠にするには、[Use End Time] チェック ボックスをオンにします。アプライアンスは、午前0時からユーザがイベントを初めて確認した時刻までに生成されたすべてのイベントを表示します。イベントビューを変更しても時間枠は固定されており、静的な時間枠の間に発生したイベントのみが表示されます。

拡張時間枠にするには、[Use End Time] チェック ボックスをオフにします。アプライアンスは、日曜日の午前0時から現在までに生成されたすべてのイベントを表示します。イベントビューを変更すると、時間枠は現在まで拡張されます。ログアウトする前に1週間を超えて分析を続けた場合、この時間枠は1週間よりも長くなる可能性があることに注意してください。

デフォルトワークフロー

ワークフローは、アナリストがイベントの評価に使用するデータが示された一連のページです。アプライアンスには、各イベントタイプに少なくとも1つの定義済みのワークフローが付属しています。たとえば、Security Analyst の場合、実行する分析のタイプに応じて、それぞれ

が侵入イベントのデータを別の形式で示している、10の異なる侵入イベントのワークフローから選択できます。

アプライアンスは、イベントタイプごとのデフォルトのワークフローによって設定されます。たとえば、[Events by Priority and Classification (優先度および分類に基づいたイベント)] ワークフローが、侵入イベントのデフォルトになります。つまり、侵入イベント (確認済みの侵入イベントを含む) を表示するたびに、アプライアンスは [優先順位および分類に基づいたイベント (Events by Priority and Classification)] ワークフローを表示します。

ただし、イベントタイプごとにデフォルト ワークフローは変更できます。設定可能なデフォルトのワークフローは、ユーザロールによって異なります。たとえば、侵入イベントのアナリストがデフォルトのディスカバリ イベント ワークフローを設定することはできません。

デフォルト タイム ゾーンの設定

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
任意	任意	任意	任意	任意

Firepower Management Center とその管理対象デバイスは正確な時刻に大きく依存しています。システムクロックはFirepowerシステムの時刻を維持するシステム機能です。システムクロックは協定世界時 (UTC) に設定されています。これは、時計と時刻を管理するために世界で使用されている基本的な標準時間です。

イベントの表示に使用するタイムゾーンを、アプライアンスが使用している標準 UTC 時間から変更できます。設定したタイムゾーンは現在のユーザアカウントにのみ適用され、タイムゾーンをさらに変更するまで有効になります。



制約事項

タイムゾーン機能 ([ユーザ設定 (User Preferences)]) は、デフォルトのシステムクロックが UTC 時間に設定されていることを前提としています。システム時刻を変更しようとししないでください。システム時刻の UTC からの変更はサポートされていません。また、システム時刻を変更した場合はデバイスを再イメージ化してサポートされていない状態から回復させる必要があります。

- ステップ 1 ユーザ名の下にあるドロップダウン リストから、[ユーザ設定 (User Preferences)] を選択します。
- ステップ 2 [タイムゾーン設定 (Time Zone Preference)] タブをクリックします。
- ステップ 3 左側のリスト ボックスで、使用するタイムゾーンを含む大陸または地域を選択します。
- ステップ 4 右側のリスト ボックスで、使用するタイムゾーンに対応するゾーン (都市名) を選択します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

デフォルトのダッシュボードの指定

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
任意	任意	任意	任意	Admin/Maint/Any Security Analyst

[Overview] > **[Dashboards]** を選択すると、デフォルトのダッシュボードが表示されます。変更しない限り、すべてのユーザーのデフォルトダッシュボードは、**[サマリー (Summary)]** ダッシュボードです。

マルチドメイン環境では、選択したデフォルトのダッシュボードは、ユーザーアカウントがアクセスできるすべてのドメインに適用されます。複数のドメインに頻繁にアクセスするアカウントのダッシュボードを選択する際、ドメインが特定のダッシュボードウィジェットを制限することに注意してください。

-
- ステップ1 ユーザー名の下にあるドロップダウンリストから、**[ユーザー設定 (User Preferences)]** を選択します。
 - ステップ2 **[ダッシュボード設定 (Dashboard Settings)]** をクリックします。
 - ステップ3 デフォルトとして使用するダッシュボードをドロップダウンリストから選択します。**[なし (None)]** を選択した場合、**[Overview]** > **[Dashboards]** を選択するときに、表示するダッシュボードを選択できます。
 - ステップ4 **[保存 (Save)]** をクリックします。
-

関連トピック

[ダッシュボードの表示](#)